

盛岡城小噺

第15話

#家臣のお仕事

藩政時代、盛岡藩では、江戸幕府の制度に倣い、家臣による行政組織を構成し、日々の藩の政務を執り行っていました。

盛岡藩の家臣は、上級家臣、中級家臣、下級家臣に位が分かれ、1,000石以上の高禄の「高知衆(たかしゅう)」などが上級家臣として家老職を務め、中級家臣は各奉行や代官職、下級家臣は御徒や同心(足軽)の職を担いました。

家臣が任命される役職は非常に多岐にわたり、史資料から確認できるものだけでも、その種類は100以上に上ります。その中には、主に藩内や諸役人の監視を行う「目付」や藩の会計をはじめとした多くの事項を司る「勘定奉行」など、どの藩でも設けられている一般的なものの外に、盛岡藩や盛岡城のことを知らないと役目がわからないような、独自の役職や職名もありました。

その一つが「舩(ふね)もやい奉行」という役職です。舩とは、参勤交代の御供を命じられた藩士たちが、負担する経費を積み立てたものを言います。当時、50石以上の藩士は、参勤交代の経費が自己負担となっていたため、自分の給料に応じて定額積立を行っており、その運営が舩奉行の仕事であったとされています。

史資料にはほかにも、漆攪奉行・買物奉行・飼鳥奉行・肴奉行など気になる役職が様々記録されますが、その名称や職務内容は時代の流れとともに移り変わるものでした。各職に就いた家臣たちが実際にどのようなお役目を果たしていたのかについては、まだまだ解明の余地があります。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。
盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。



元県庁の場所

明治維新後、盛岡城の二ノ丸には盛岡藩庁が開庁されました。その後、廃藩置県により盛岡県が設置されますが、県庁機能はそのまま二ノ丸に残され、県の政務はしばらくこの場所で執り行われていました。徐々に業務が多様化し、敷地不足や老朽化が生じたことに伴い、その機能は現在の岩手県庁の地に移されることとなりました。

双子石

以前も紹介した「双子石」が確認できる場所の一つです。石垣の石材を加工する際に割られて二つになった石を、合わせて「双子石」としており、盛岡城の石垣では、各所に一対となる双子石を見つけることができます。探すポイントは、石の形と、石を割るためにあけられる矢穴の数やその大きさです。



大書院下通

今も通ることができるこの道は「大書院下通」と呼ばれ、大奥に仕えていた女中や役人などが、通路として使用していたともいわれています。ここではその道すがら、石垣の崩壊を防ぐために築かれた「はばき石垣」を目にすることもできます。

盛岡城日記

雑電

Vol.15 2024年8月

今回は盛岡城MAP第二弾「盛岡城 物見遊山」です。現在の盛岡城跡には、往時の盛岡城の名残を感じることもできるスポットがたくさんあります。日々の気晴らしなどに公園を散策しながら、盛岡の景色にひっそりと溶け込んでいるその場所を、ぜひ訪れてみてください。

往時の階段

盛岡城に暮らす藩主が、榊山稲荷を訪れる際に使用していた階段です。当時のまま残されている階段を目の当たりにすることができ希少な場所です。
※進入は不可。

石垣普請奉行銘

ここに積まれた石垣には、当時の石垣の普請奉行の名前や日付が刻まれています。その日付は「貞享三」(1686)年と記されており、日本最古の奉行銘といわれます。歩道からは、その場所に続く小道が作られているため、この奉行銘を間近でじっくり観賞することができます。ほかに、現在修復工事中の場所にも宝永二(1705)年の奉行銘が残されています。

